

いそファミ通信 9月号

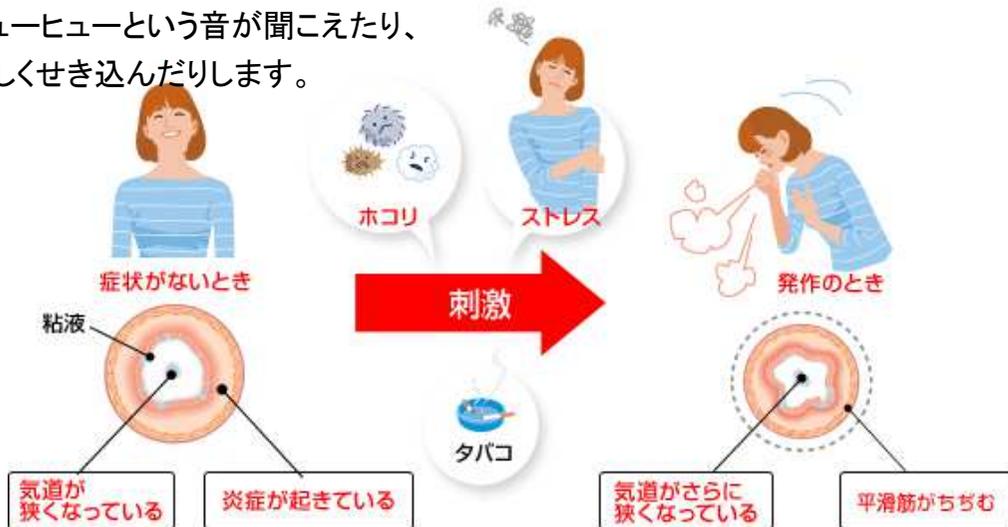
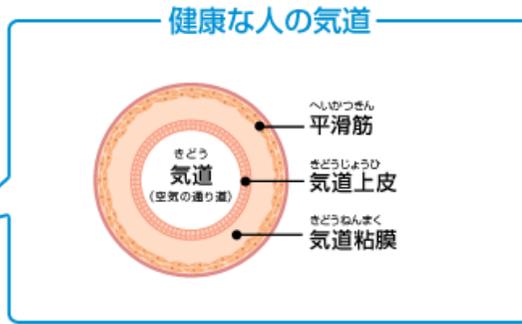


9月になって朝、晩は過ごしやすくなってきましたね。
急な気候の変化に身体がついていかずに、風邪をひいてはいませんか？
体調管理には十分お気をつけください
そんな天気や気圧の変わりやすい季節。なりやすいのが喘息です。そんな知
っているようで知らない喘息について今月はお話します。

喘息ってどんな病気？

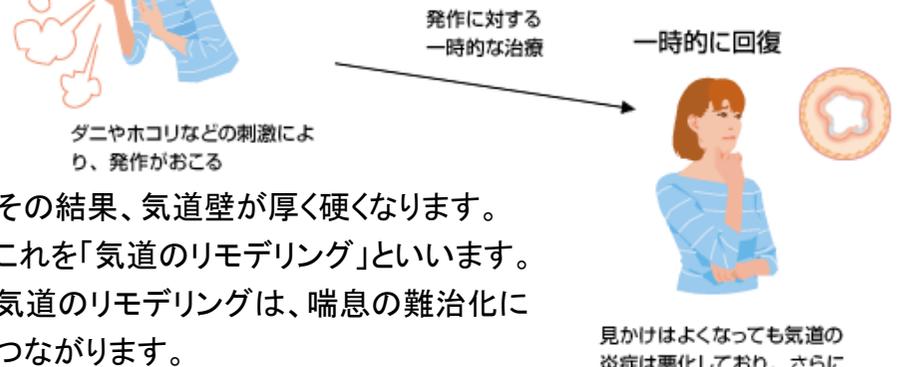
喘息(気管支喘息)のもとは気道の炎症です。
炎症がおこっている気道はとても敏感になっていて、正常な気道ならなんとも
ないホコリやタバコ、ストレスなどのわずかな刺激でも狭くなり、発作がおきて
しまいます。

炎症がある気道に刺激が
加わると、気道が狭くなり、
痰などの分泌物が増えます。
そのため呼吸が苦しくなり
息をするたびにゼーゼー、
ヒューヒューという音が聞こえたり、
激しくせき込んだりします。

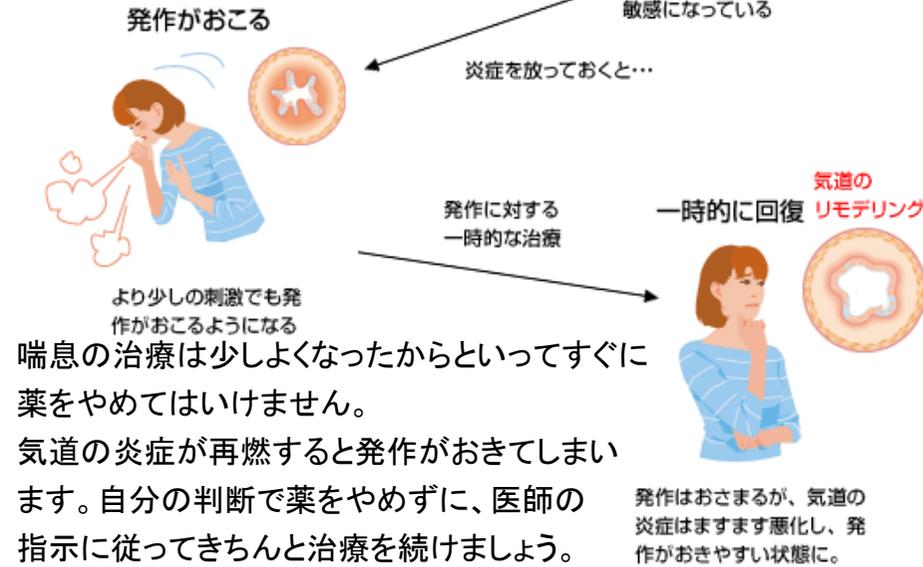


日本では、喘息の患者さんは増えており、1960年代では子どもも大人も1%前後でしたが、最近の調査では子どもで約6%と6倍、大人で約3%と3倍になっており、全体では400万人を超えています。家屋構造の変化によるアレルゲンの増加(ホコリが逃げない)、排気ガスや工場排煙などによる大気汚染、食品や住宅建材などの化学物質、長時間勤務による過労やストレスが増えたこと、清潔すぎる環境などが喘息を発症させる要因のひとつと考えられます。

喘息の正体は気道の慢性炎症です。発作がおきたときだけ薬を使って、毎日の気道の炎症治療をおこなっていると、気道がますます敏感になり、発作をくり返すという悪循環におちいります。



その結果、気道壁が厚く硬くなります。
これを「気道のリモデリング」といいます。
気道のリモデリングは、喘息の難治化につながります。



喘息の治療は少しよくなったからといってすぐに薬をやめてはいけません。
気道の炎症が再燃すると発作がおきてしまいます。自分の判断で薬をやめずに、医師の指示に従ってきちんと治療を続けましょう。

発作はおさまるが、気道の炎症はますます悪化し、発作がおきやすい状態に。そして気道壁は厚く、気道はせまくなる